

犬島プロジェクトと地域再生

八木健太郎



犬島プロジェクトとは、美術家柳幸典が岡山県の瀬戸内海に浮かぶ小さな島、犬島で展開しているアートプロジェクトである。プロジェクトの舞台である犬島は、岡山市に属し、かつては精鋼所が置かれて栄えた島であるが、精鋼所が閉鎖されて久しい現在は近隣の島々と同様に過疎化が進行している。島内でもかなりの面積を占めているかつての精鋼所は、その圧倒的なスケールを持つ荒涼とした風景によって、映画やドラマなどの撮影でも利用され、また廃墟マニアの間でも有名な場所であった。この精鋼所跡をアートの力で再生することを目指しているのが、柳がライフワークとして取り組む犬島プロジェクトである。

犬島プロジェクトの意義

犬島における精鋼所跡のような近代遺産を再生するプロジェクトは、古くはシアトルのガスワークスパークや、近年ではドイツのエムシャーパークに見られる一連のプロジェクトと思想的な基盤を共有している。かつての繁栄を支えた遺構を地域のプライドの焦点として再生することにより失われた自信を取り戻し、地域の再浮上をもたらそうという各地の活動に対しては、おおむね評価も定着してきている。

ただし、犬島プロジェクトがこれらの先例と決定的に異なるのは、公共のプロジェクトではなく、この敷地を買い取った民間によるプロジェクトであるという点にある。これほどの規模の事業を完全に民間のアートプロジェクトとして実施するケースは極めてまれであり、今後の経過が注目される。

犬島プロジェクトの課題

民間のプロジェクトということで、ある意味プライベートコレクションの一部としてプロジェクトが実施される。これだけの規模のプロジェクトとなると社会に対する影響は非常に大きい。民間で実施されるプロジェクトが社会的な視点を持ってプロジェクトを進められるかどうかは、もっぱらオーナーや美術家の資質に依存することになる。犬島プロジェクトにおいて、オーナーや美術家が犬島に積極的に関わる姿勢を示していることは幸運であるが、今後の同種のプロジェクトにおいて、そうした幸運な組み合わせが常に訪れるとは限らない。

また、地域再生と言うと耳障りは良いが、現在の島内の経済を遙かに凌駕する規模のプロジェクトの登場が地域の経済を大きくゆがめてしまう可能性もある。実際、島内の不動産価格を巡ってはすでにさまざまな思惑が飛び交っているようだ。本来目指した地域の再生が望ましい形に結実するかどうかは、今後あらわれてくる地域経済の諸問題に対し、どのように影響力を行使していけるかにかかっているともしえるだろう。

八木健太郎 (Kentaro Yagi)

1996年神戸大学卒業後、同大学院、ワシントン大学、ローマで建築とアートを学ぶ。
神戸大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了。博士(学術)。
現在、西日本工業大学デザイン学部准教授。